



# 2018上期決算が発表されました JAL 収入の伸びは予想以上

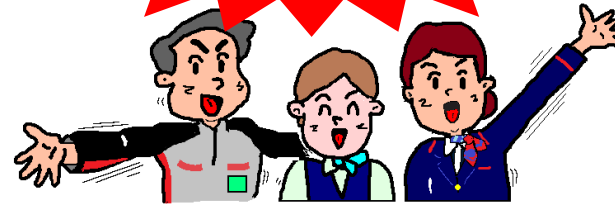
JAL ユニ 宣伝ビラ  
No16-02

地震や台風などの自然災害が多発

旅客基幹システム関連費用の増加

燃油価格の高騰

いろいろ  
打ち返して  
利益出た



それでも一時金は

また **2.0** カ月  
年末、年始、年度末  
お金かかるのに...



## 国際線の収益 ANA対比

| 国際線  | JAL    |              |               | ANA    |              |               |
|------|--------|--------------|---------------|--------|--------------|---------------|
|      | 2017   | 2018         | 率             | 2017   | 2018         | 率             |
| 収入   | 2,293  | 2,692        | <b>+17.4%</b> | 2,955  | 3,310        | <b>+12.0%</b> |
| 座席キ口 | 25,620 | 27,339       | +6.7%         | 24,157 | 25,788       | +6.8%         |
| 旅客キ口 | 20,767 | 22,578       | +8.7%         | 31,852 | 33,315       | +4.6%         |
| 搭乗率  | 81.1%  | <b>82.4%</b> |               | 75.8%  | <b>77.4%</b> |               |

国際線が好調  
増収増益を目指そう



搭乗率は過去最高  
LCC並みの高さ

# JALグループ全社員集会での職場の声

11月6日に行われた集会で、各労組から職場報告がありました。ポイントだけ紹介します。

## JGS 大阪労組

生活を見ると、一時金は切り下げられ年末2.7が2.0になると自分は12万円くらい下がることになる。4年連続のベアがあっても吹っ飛んでしまう。毎月の生活で切り下げられるものがないからお昼はカップラーメンとかおにぎりを食べている。これで社員の健康が守れるのか。また、職場は計画に対しマイナス人員で、年休は取りにくい、休憩も取れない、飛行機が到着しても機側に人がいない。貨物の仕分けをする上屋へ搬送する人、機内清掃の人も足りない。

10月からは毛布たたみがJGSに戻ってきた。それはいいけど、その分の人を増やしもしない。更に部門別採算制度のためか作業の下準備は時間外にやっている。それだけ人がいないのに地方空港に人材派遣もしている。JGS大阪は人員調整弁みたいだ。自然災害は多かったが、多くのお客様にJALを利用していただいた。それを支えた我々の賃金、労働条件の改善を求める。



## 日本航空乗員組合

どこの職場も人員不足、乗員の職場も高稼働で勤務がきつい。勤務終了後の休日も少ない。実際に「この勤務パターンは許されるのか？」と組合に問い合わせがくる。就業規則で厳しい勤務がアサインできるが、休養時間などの基準が乗員の感覚と合っていない。人員不足について団交でも言っているが飛行機が止まらない限り会社は足りないと言わない。職場の声が経営に届いていないということ。この年末、一時金、解雇問題、安全ではトランジットスタッフの問題に取り組んでいる。後は訓練生への取り組みに力を入れている。訓練期間中、訓練が始まる前に他職場研修があり、その職場での手当が十分ではない。訓練に入る前の英語教育も今は個人任せになっている。研修先で働きながら「英語は自己研鑽でやる事」では厳しい。上期は職場が頑張っただけで素晴らしい営業利益を出した。グループ全員が固まって、一時金の上澄みを目指して頑張っていこう。

## 日本航空キャビンクルーユニオン

不当労働行為問題、解雇問題の解決に向けて交渉している。勤務基準は大きな課題がある一方で、働く環境改善は進んでいる。10月から一部の機内清掃と毛布たたみがグランドハンドリング会社に委託され改善された。しかし、JGSの職場では、人員補充などなく業務が増えただけと聞いた。一方の職場が改善され、他が悪くなるのはあってはならないこと。会社は、業務量が増える分、委託会社の契約金は増やしている、と言っている。JGSの人員や賃金・手当が増えるよう団交で訴えていく。人を確保するには働きやすさも大事だが賃金も大事。

## 日本航空ユニオン

具体的回答はなかったが、手応えが少しある。春先には自信を持って一時金の説明をしていたが、2.0では生活が成り立たないと言いつけてきたら理解を示しているように見えた。でも回答は変わらなかったので希望を捨てず残りの交渉にぶつけていく。会社は収益を上げるために外航を受託してくる。地方の整備では7割が外航を扱うところも。羽田もAFRSが多く自社便を整備する人が足りない状況。職場の負荷を考えると、どこかに手当が必要。JLUとしては「金で解決できるものはある」と言って諸手当に力を入れている。単身赴任やAFRSの手当を勝ち取っていきたい。あきらめずにやるのがプラスになる。この年末頑張っていこう。

日航労連「JALユニ」宣伝ビラ No 16-02 2018年11月

発行：日本航空労組連絡会議

Tel/Fax03-6423-2461 Mail ⇒



日本航空乗員組合・日本航空ユニオン・日本航空キャビンクルーユニオン